

オーディオの総合月刊誌 **ステレオ**

# stereo

2025  
06

小型**CD**プレーヤー一斉試聴  
**CD**トランスポート歴代名機たち／エレクトロニカ～全身で浴びる電子音の快楽  
高音質**CD**レーベル紹介

特集

## 気楽に **CD**再生

「特別企画」北陸オーディオ紀行





【特集】

# 気楽に CD再生

最近、ここにきてコンパクトなCDプレーヤーの発売が相次ぎ売れ行きが好調のようだ。

考察するにストリーミングやアナログなど再生機器の選択肢が増えた今、

CDはメインソースではないがたまに聴きたい。

加えて、いずれかの機器に高性能な最新のDACが搭載されている。

そういった背景からコンパクトなCDプレーヤーや

トランスポートと最新DACでCDを気楽に楽しみたいというニーズが

高まっているのではと想像する。今どきのCD再生に

適したモデルという視点で特集した。





リファレンス機

CDプレーヤー：ティアック PD-301-X

DAC：ラックスマン DA-06

プリ・メインアンプ：同 L-505Z

## CD世代のCD観を問う

CDについてアンケートを行なった。質問は①CDは聴きますか？②どんなプレーヤーなら欲しいですか？この2点である。CDと共に生まれた男女が望む「小さければOK」のリアルな声を紹介。

東京都 会社員 Tさん(男性)

ご生誕：1981年

オーディオ歴：15年

コンポ趣向：新しめ/モニター志向

①CD聴きますし、愛着もありますよ。ワールドミュージックが好きなのですが、ストリーミングでは聴けないものが多い印象です。急に配信をしなくなる事もあるので、好きな作品はCDでもLPでも持っておきたいですね。買った方が真面目に聴くし笑。

②まず小さめでないと置き場所に困るので絶対条件です。それとどんな部屋でも浮かないシンプルなデザインがいい。余計な機能は要らなくて、その分音質にこだわって、できれば5万円以内で！



東京都 会社員 Uさん(女性)

ご生誕：1983年

オーディオ歴：0年

コンポ趣向：音質が良く、手頃な価格

①昔買ったCDを中心に聴いています。

邦楽ロックが好きで、特に解散しているインディーズ系のバンドにはCDでしか聴けない曲もあります。ストリーミングも聴きますが、携帯で再生すると、ベースやドラムの音が聴こえづらいことも。手持ちの機器ではCDをプレーヤーで再生すると一番良い音で聴けるので、なるべくCDで聴きたいです。

②小型でミニマルなデザインのもの。家具の色を揃えると、部屋が広く見えるようで、白か木目のものだと嬉しいです。予算は10万円以内で、Bluetooth対応。その中で、できるだけ音質の良いものを選びたいです。



東京都 会社員 Mさん(男性)

ご生誕：1982年

オーディオ歴：0年 揃えてただけなので

コンポ趣向：何でも古い方が好き/欲張り

①子供の頃に身近にあったメディアは

みんなとおもしろいですね。国産の古いCDプレーヤーで聴いていますが、調子が悪くてラックの肥やしです。

②初期のプレーヤーはもう限界なのか、最近は修理に出してもすぐダメになる。面倒なので新しく小さいのが欲しいです。どうしても今でもつかいのばかりなんです。自分の場合最新を選ぶ意味は小型化に尽きます。80年代にはもういい音出たと思います。そのまま小さくしてくれば買うのに7万未満で。



# 小さいだけで、欲しくなる 小型CDプレーヤー 実力調査

●井上千岳 写真●高橋慎一

CDを差し置いて、サブスクとアナログ再生に注力したシステムが若い世代を中心に増加傾向にある。しかしオーディオを知る若い世代とは即ちCD世代であり、CD愛の強い世代。CD登場の洗礼を浴びた上の世代もまたCDへの信頼が篤い。つまりオーディオ界では依然としてCDの人気は衰えていないものと見られる。このような状況を背景に、現在メインの中の“サブコンポ”として小型CDプレーヤーの需要が高まっているようだ。今日はこの不思議な共時性に着目し、そんなプレーヤーをオーディオ評論の目線で計ってみよう。

## 小型ピュアオーディオ

CDは20世紀のメディアだが、技術の進歩を反映して進化を続けてきたせいか、アナログと違ってやり残したまま終わってしまったという感覚がない。いやそもそも終わってはいないが、やることはやり尽くしたということなのか、以前のように画期的な改良や革新といった話は久しく聞かない。

目下の注目はハイレゾである。ことにQobuzの配信が始まってからは、話題の中心は専らストリーミングに集中している。ではCDはもう不要なのかというところはいかない。これまでに発売された膨大な量のCDを再生しなければならぬという事情はアナログと同じで、CDプレーヤーという需

要は今まで同様に続くはずである。ただしその扱い方に、少しだけ違いが出てきているのも事実である。重く大きな存在として受け止めるのではなく、もっとコンパクトにライトに接しようというのがいまどきのCD作法といえるべきなのか、ミニCDプレーヤーがひそかに人気を集めている。ポータブルあるいはデスクトップとして、確かに需要が高まっている。今回はそこにスポットを当ててみることにしたい。

ただ断っておくが、ミニでもコンパクトでもその音質は侮れるものではない。これは実際に聴いてみて驚いたものだが、かつてのミドルクラスやハイエンドにも迫れるくらいの音質が現代の水準なのだ。その点を充分頭に入れて以下お読みいただければ幸いです。

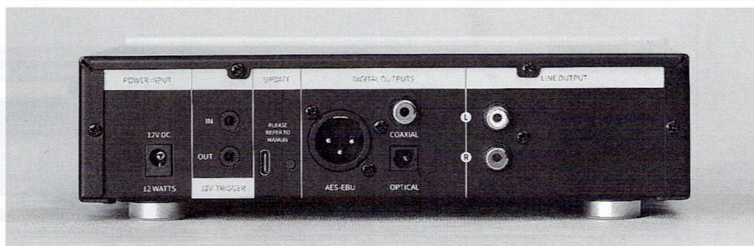




# クリーク 4040 CD

¥180,000

●デジタル出力[同軸:RCA×1、光:TOSLINK×1、AES-EBU バランスデジタル:XLR×1] ●オーディオ出力[RCA ステレオオーディオ出力] ●主電源電圧:100V 50/60Hz ●消費電力:20W/最大、0.5W 未満/スタンバイ ●自動スタンバイ[一定時間無信号時信号時自動オフ(調整可)/4040 A連動12V トリガー付] ●仕上げ色[フロントパネルはシルバーまたはブラック。カバーはブラック] ●サイズ[215W×60H×220Dmm] ●重量[1.8kg]  
●問合せ先:ハイ・ファイ・ジャパン  
✉ mail@hifijapan.co.jp



## 小型コンポの代表格最新シリーズ 背後にまるで何もないハイエンドのS/N 有無を言わさぬ強靱な表現力に引き込まれた

クリークは現代ブリティッシュ・サウンドを代表するブランドのひとつで、1980年代から一貫して薄型軽量で価格も手頃なアンプやCDプレーヤーに徹してきた。他の多くのブランドがその後ハイエンドやAVへ方向を変えてゆく中、クリークのスタンスは全く変わっていない。一貫した姿勢に加えてその魅力的なサウンドにファンが定着している。

その最新のスタイルがこの4040シリーズで、アンプの4040Aなどと併せてコンパクトなサイズのラインアップを形成している。機能はシンプルで、CD再生のほか光/トランス型SPDIF/AES-EBUのデジタル出力を持つ。アナログ出力はアンパランス1系統である。

これはもうハイエンドの音で、そもそもS/Nが違う。背後にまるで何もなく、どの楽器も新鮮で非常にきめ細かく出ている。それぞれに高い存在感があり、ことにバロックではチェロやリユートなど普段は意識の向かない楽器も均等に鳴っているのがエンタリー

と一線を画すところだ。情報が多いのとそれが正確に捉えられていることがその要因。また音色が瑞々しく、鮮度に富んで生きいきしているのも印象的だ。

ピアノはタッチの出方に余裕があり、硬さや苦しうなところがない。低音部も深いところまで押さえながらにじみややけがないし、一音々々が鮮明で余韻がきれいだ。そして表情の起伏が大きく、静かな作品でも表現という点ではダイナミックな感触を受けるのである。

オーケストラは奥の深い幅の広い静寂な空間に、ぼつぼつと楽器が点在するのが見えてくる。切れがよく、パッセージの一つひとつがきりつと締め括られて小気味よく流れを作る。楽器どうしの細かなやりとりや掛け合いでもひそやかで、またわかりやすく、そこからクライマックスのフォルテまでぐっと上昇してゆくダイナミズムの大きさが聴きもので、有無を言わせず人を引き込んでゆく表現力に強靱なものを感ずるのである。

文・鈴木 裕 Yutaka Suzuki Photo・K. Kawamura

## 能率高めのスピーカーと 組み合わせれば、趣味のいい リスニング人生を送れそうだ

1982年に発売されて高い評価を得た同社CAS4040の  
真髓を再現するように設計された注目すべきモデル。

クリーク

# 4040A

プリ・メインアンプ  
¥200,000



### S P E C

#### 出力●

55W/8Ω、110W/4Ω、両チャンネル駆動

#### 周波数特性●

5Hz~50kHz +/-3dB、10Hz~20kHz +/-1dB

入力感度●525mV/8Ω、55W

入力●RCA×2(アンバランス)、XLR×1(バランス)

デジタル入力●同軸×1、光×1、USB 2.0×1

DAC●ES9018k2m Sabre DAC

スピーカー出力●1系統

ヘッドフォン出力●30~300Ω6.3mm

#### 消費電力●

スタンバイ時0.5W未満、

アイドル時5W、フルパワー時350W

仕上げ●シルバーまたはブラックのフロントパネル

サイズ●21.5W×6H×25.5Dcm

重量●2.2kg

問い合わせ先●

ハイ・ファイ・ジャパン Tel.03-3288-5231

クラスAと  
感じられるほどの  
温かみのある音

鳴らし出してすぐに、きめ細かい  
中高域。低域もしっかり鳴らすと、  
メモに書いている。正直に書くと、  
最初はクラスDのアンプかなと思っ  
て聴きだしたが、10分間も聴か  
ないうちに違うかもしれないと思  
い始めた。たしかに昔のクラスDは、

イギリスのメーカーのコンパクト  
なプリ・メインアンプ。幅は21.5  
cm。奥行は25.5cm、重量は2.2  
kg。出力は55W(8Ω)、110W(4  
Ω)。電源アダプター等はなく、電  
源ケーブルがダイレクトに本体の背  
面に刺さるタイプ。





コンパクトな筐体だがRCA2系統、XLR1系統、同軸、USB、光と目一杯の入力を備える

フルレンジのスピーカーを鳴らすと、高域の音色感のクセが強かった。しかし、技術は進んでいる。もつと言うと、マランツが昨年発売した高級で大型のプリメインのパワーアンプ部はクラスDである。じゃあ、クリーク4040Aの作動方式はクラスAか、そう思う方がいてもおかしくないほどの音の滑らかさと、いい塩梅の温かみのある音の温度感である。輸入

商社のウェブサイトにはMERSUS Infineonテクノロジーの採用とあるが、その方式はクラスDのようだが、小型で低発熱、高集積度で高音質。パワーマシンの性能を引き出したクラスDマルチチップモジュールを搭載しているとのことだ。

しかし「このアンプの優れたパフォーマンスの鍵は、オーディオ向けに最適化された高周波電源にあり、アンプの潜在的品質を実現している」と説明されている。クラスDでは電源がとても重要だということだろう。

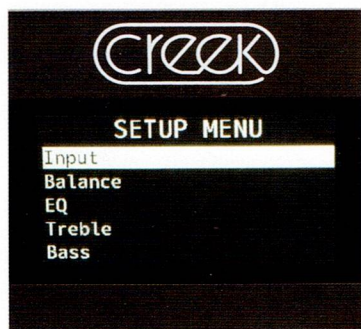
ところで、そもそも4040Aの起源はクリークオーディオ最初の製品で1982年に発売されたCAS4040にあるという。その真髄を再現するように現代の4040Aは設計されている。と説明されている。

## 小音量の 雰囲気もちゃんと表現 4040Aは音楽の 良く鳴るアンプだ

さて、ここまで紹介してきた限り、コンパクトで音もよく、駆動力も低くはない。値段も買いやすいレベルだしいいことばかりだ。最後に、限界性能というか、鳴らしにくいソフトを試してみよう。ダニール・トリフォノフのソロ・ピアノ。ヤニック・ネゼーセガン指揮フィラデルフィア管弦楽団の『ラフマニノフ…変奏曲集』ここから「パガニーニ狂詩曲」の終わりの方を聴いてみる。トラックでいうと、23から25第22変奏から25変奏。分厚いオーケストレーションに加えて大太鼓や、ティンパニーのフォルティッシモが強打される部分だ。自宅で鳴らす時は比喩ではなく床が揺れることになる。4040Aをいじめる意図はないが、読者の方になり替わって試聴室で聴いているので、駆動力の限界点を見極めるべきと思ったのだ。その結果は、さすがに床が揺れるような重たい音は出なかった。ただし、逆に保護回路も作動しなかった。それでいいんだと思う。

我ながら大人げないテストをした

ので、その反省も込めて、続いて、静かな音楽を小音量で聴くテストもしておこう。メゾソプラノの波多野睦美と、リュートのつのだたかしによるアルバム『アルフォンシーナと海』。そのタイトル曲はうまく再生できると、無音より静かに感じさせる音楽だ。クリークで鳴らした結果は、さすがに静謐感まではいかなかったが、小音量の雰囲気はきちんと出ていた。とてもいいアンプだ。多くの方に薦められる。能率高めスピーカーと組み合わせれば、趣味のいいリスニング人生を送れそうだ。ハイファイ調だけど音楽の鳴らないオーディオに時々出会うが、4040Aは正反対の音楽の良く鳴るアンプだ。ちなみに1時間程度聴いたあと、最後に天板に触ってみると、ほんのりと暖かった。



イコライザや自動スタンバイ、ゲイン設定など細かい設定が行なえる





# 4040 SERIES

from entry level to high-end amplifiers



最新のデジタル技術を駆使した、創立40周年の記念モデル。  
ディスクトップでのハイエンドオーディオ再生を目指して、通常の1/4の容積サイズにて新登場！

4040 CD CD Player ¥180,000

4040 A Integrated Amplifier 55W 8Ω ¥200,000

## Creek Audio

Designed and Engineered in the UK

株式会社ハイ・ファイ・ジャパン 〒102-0075 東京都千代田区三番町1-8 tel: 03-3288-5231 fax: 03-3288-5233

[www.creekaudio.com](http://www.creekaudio.com) / [www.hifijapan.co.jp](http://www.hifijapan.co.jp)